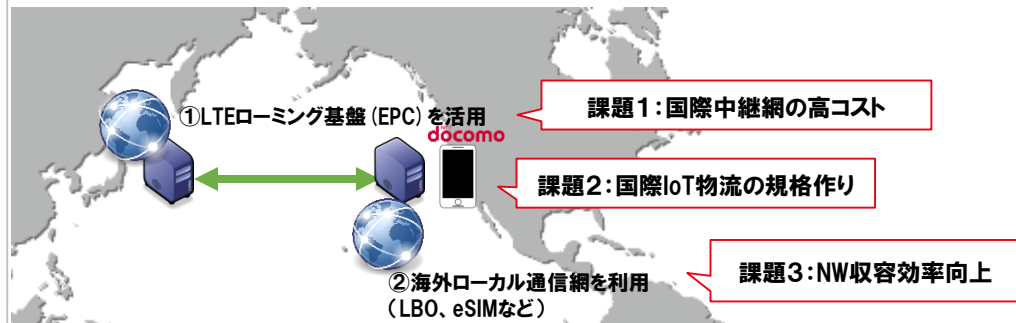


【未来の物流・スマートシティを世界規模で実現】



【5G時代のローミング技術と実現への課題】



提供価値

高速大容量

低遅延

多数端末接続

実証実験・PoC段階

- 5GでIoTを繋げ、国際的に物流が行きかうスマートシティを実現可能
- たくさんのモノが行きかう国際的な物流のIoTで5Gローミングを使えば、特性である多数端末接続により、スマートシティにおける、事業効率・インフラ利用効率を高めることができる
- スマートシティだけでなく、日本→海外、海外→日本で旅をする旅行者・出張者にも大容量高速通信を提供可能

概要

- 海外は5Gを用いたスマートシティが展開されていく流れにあり、日本もビジネスの国際展開において海外5Gインフラにあわせてソリューションの設計をしていく必要がある。その際、ローミング技術を応用することで、5Gの世界的なカバレッジを効率よく広げられる。
- 技術的には、既存のLTEローミングの基盤をそのまま活用することで、早期の5Gローミングを実現可能
- 実現に向けた検討課題：
 - ① 5GC (Stand Alone 5G Core) によるE2EでのNW収容効率向上
 - ② 国際的IoT物流の規格作り (デバイス、ネットワーク、管理PF)
 - ③ 国際中継ネットワークの経済性の追求・ビットコストの低減